

(注)「コモロ連合月報」は、新聞報道等をまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にコモロ政府の公式見解と異なる内容が含まれる場合もあるため、予めご留意をお願いします。なお、各記事冒頭の日付は、報道された日付です。

コモロ連合月報（2025年12月）

《主な出来事》

【内政】

- 26日（Al Fajr） トランスペアレンシー・インターナショナルによる2024年の腐敗認識指数レポートにおいて、コモロは21/100のスコアで158位にランクインしており、状況は依然として大きな改善を見せていない。同国は2030年までに最も腐敗の少ない国々（カテゴリーBまたはA）にランクインすることを目指している。

【外政】

- 3日（La Gazette） アザリ大統領は、モロッコ・タンジェで開催されているMeDay2025に出席し、100か国以上から集まった指導者たちを前に、地政学的、経済的、気候的な亀裂は「どの国も例外ではない」と述べ、世界統治の基盤を再考するよう呼びかけた。

【経済】

- 1日（Al Fajr） コモロとマダガスカル間の航空便が、数年間の運休を経て、12月13日に正式に再開される見通し¹。

1 内政

- 9日（La Gazette） イキリル・ドニン前大統領は、野党の要人たちが集まる場で演説を行った。中で同氏は、島々の自治を求める闘いは「昨日始まったものではない」と述べ、自治の問題は独立前からすでに議論の中心にあったことを証明している。
- 26日（Al Fajr） トランスペアレンシー・インターナショナルによる2024年の腐敗認識指数レポートにおいて、コモロは21/100のスコアで158位にランクインしており、状況は依然として大きな改善を見せていない。同国は2030年までに最も腐敗の少ない国々（カテゴリーBまたはA）にランクインすることを目指している。

2 外政

- 1日（Al Fajr） 11月25日、駐コモロ中国大使は、シェキディン・サイード・マディ国土整備・都市開発大臣である氏と会談した。
- 3日（La Gazette） アザリ大統領は、モロッコ・タンジェで開催されているMeDay2025に出席し、100か国以上から集まった指導者たちを前に、地政学的、経済的、気候的な亀裂は「どの国も例外ではない」と述べ、世界統治の基盤を再考するよう呼びかけた。
- 3日（Al Fajr） 欧州連合（EU）は、国際舞台におけるコモロの最近の積極的かつ増大する役割について感謝の意を表明した。この声明は、EU事務所での地元メディアとの会見で発表され、コモロの若者たちに有益なプロジェクトを支援するという、両者間の強力かつ継続的な取り組みが強調され

¹ 当館注：本月報発行時の2026年1月現在、未だ再開はされていない。

た。

- 9日（La Gazette） 4日、ンガジジャ州知事のイブラヒム氏とアル・ルマイシ駐コモロUAE大使は、ハリファ財団が資金援助した縫製ワークショップを開始した。この機会に、両氏は、このプロジェクトが女性のエンパワーメントに貢献すると同時に、両国間の拡大を続けるパートナーシップを強化するものであることを強調した。
- 26日（Al Fajr） モハメド外務・国際協力大臣とハリジャオニナ外務大臣は電話会談を行った。この会談で、両大臣は、ここ数年冷え込んでいた両国間関係を再活性化するという共通の意志を表明した。
- 26日（Al Fajr） 保健・社会保護省は15日、コモロにおける中国医療チームの第16期と第17期の間で引継ぎ式をが開催された。式典にはナウダ保健・社会保護大臣、駐コモロ中国大使、および中国医療チームの全メンバーが出席した。

3 経済

- 1日（Al Fajr） コモロとマダガスカル間の航空便が、数年間の運休を経て、12月13日に正式に再開される見通し。

（了）